

9月

敬老会

豊松苑新聞



9月5日(火) 今年敬老会では、長寿のお祝いを受けた方は10名いました。おめでとうございます。

毎年恒例になっているフラダンスサークル「トコフラワーズ」さんに協力していただきました。利用者さんが聞きなれた歌にあわせてフラダンスを踊り、次に職員による出し物の二人羽織とよさこいソーラン節です。

少ない練習時間でしたが、一緒に歌ったり手拍子を打ったり利用者さんの楽しそうな姿を見て一生懸命練習した甲斐がありました。今年取り入れた二人羽織は30歳前半の二人が体当たりで挑み大爆笑を誘いました。毎年行う敬老会ですが、若い人のユニークな考えも取り入れながら利用者さんに満足していただける敬老会をこれからも企画していきたいと思えます。来年もお楽しみに！

介護老人
保健施設
豊松苑
電話(083)
259-7381



職員による出し物

トコフラワーズによるフラダンス



第22話

すたっふの ○○○な話

リレー二十二人目は、介護福祉士
的場 勲さんからの指名で、
准看護師の宮元 裕子さんです。
では、どうぞ！



こんにちは。前回の的場さんから紹介を受けた准看護師の宮元です。

下関は海がきれいですが、私の故郷の対馬もとても海がきれいなところですよ。毎年対馬に帰ったときには海を見に行きます。

早いもので下関にきて38年になりました。プライベートでは、8月に大阪にいる長男が結婚し、次男が来年度成人式を迎えます。振り回されっぱなしですが、子どもたちが無事に巣立ってくれて嬉しさ半分、寂しさ半分という感じです。可愛いお嫁さんが来てくれた次は、孫を楽しむにしています。

仕事では、利用者様・ご家族様に寄り添える看護が出来るよう、一生懸命頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

次の回は管理栄養士の丸山 澄江さんです。



孫は女の子がいいな……。

ゆこ

今秋の朝、一人の女性が豊松苑で最後のときを迎えられました。とても笑顔の上品な方でした。

豊松苑とこの方が初めてお会いしたのは、昨年の春。ひ孫さんのお産で介護されていた娘さんがご自宅を留守にされるとのこと、豊松苑の利用となりました。すでに93歳と高齢でしたが、食事や排泄など日常生活の動作はご自分でできていました。「いつまでも自宅で過ごしたい。」とのご本人の気持ち尊重するため、自立した生活を目標に支援してきました。

手先がともも器用で、ぬり絵や折り紙をしながら日中過ごされることが多かったです。お話好きで、ご家族のお話をよくしてくださいました。自宅への入退所を繰り返しながら在宅生活を続けて来られました。

最後の入所となったのは今年の夏。歩くことも難しく、ベッド上での生活でした。医師からは高齢であり、いつ何が起きてもおおしくないと。と言われ、ご家族と検討した結果、終末期を豊松苑で過ごされることとなりました。日に日に食事が減り、折れそうな程細い身体でした。そんなご本人の姿を見て、私たちにできることは何だろうか、ご本人らしく最期を迎えるために何が出来るだろうか、職員間としてご家族で何度も話し合いをしました。

終末期ケア

～老健で最期を迎えるご本人に私たちができること～



ある日、「私の人生は何も精がない人生だった。」と言われました。

その言葉を聞いたご家族と私たちは、ご本人が趣味でされていたパッチワークの作品を施設内に展示することになりました。たくさんの人に見てもらいたい、ご本人の集大成にしたい、との思いで開催しました。

作品の中には小さな子供が描かれており、それはご自身のお子さんが溢れる作品ばかりでした。ベッドから離れられない状態でしたので、パッチワークの展示会場までベッドで移動し、ご自身の作品やご覧になったたくさんの方々のメッセージを見て頂きました。その時の微笑んでくださったお顔は忘れられません。

その数日後、95歳で静かに息を引き取られました。

豊松苑で最期を迎えられる方は他にもいらっしゃると思います。人生の最期を担うことはとても重く、大切なことです。後悔が全くない終末期ケアはありません。だからこそ、ご家族と何度も悩み「よかつたね。」と最期に振り返ることが出来る終末期ケアを目指したいと思います。

～ご家族へのメッセージ～

